



持続可能な 社会の実現に向けて 全社一丸となって 環境活動に 取り組みます

はじめに

大平洋金属株式会社は、ステンレス鋼の主原料となるフェロニッケルを主力製品として、独自に開発した製錬技術の更なる向上と効率化を目指し、常に環境に配慮した製造プロセスと、高品質な製品の安定供給に努めています。また、製錬工程において副産物として得られるフェロニッケルスラグを製品化し、環境負荷の少ないエコ商品として生産・販売しています。さらには、低品位ニッケル鉱石からの製錬技術を活かしたごみ焼却灰などの再資源化システム事業を、環境に貢献するサービスとして展開し、地域の廃棄物リサイクルにも貢献しています。

フェロニッケル製錬事業の環境対策で 世界トップを目指す

当社は「かけがえのない地球を守るため、あらゆる環境問題に積極的に取り組むこと」を経営方針の一つとして掲げ、全社一丸となって環境保全活動に取り組んでいます。

2013年度より、排水終末処理施設が本格稼働を開始しました。製造工程から生じる排水だけでなく、当社敷地内に降った雨水も含めた全量をこの施設で処理して、公共水

域に排出しています。その結果、これまで課題となっていた青森県、八戸市、当社の三者で定めた基準を超過する事例はゼロとなりました。

2013年度の厳しい経営状況の中、排水終末処理施設の設置・稼働は非常に大きな投資となりました。しかし、後回しにすることなく進めた結果、排水終末処理施設は、当社における環境対策の重要性を社員に示す例となり、社員の意識向上にもつながったと考えています。

また、当社の事業は、製造工程で多くの電力や化石燃料を使用します。そのため、環境対策において、地球温暖化対策、省エネルギー対策は最優先課題となっています。

省エネルギー対策の推進にあたり、継続的かつ適切な設備投資の実施は必要不可欠ですが、最も重要と考えているのは現場社員の意識向上です。社員の世代交代が進む中、製造技術だけでなく、省エネなどの環境対策についても継承していくことが重要だと考えています。ベテラン社員には常識となっている環境対策を、企業文化として若手社員に継承していくため、今後もOJT^{*1}によって現場における指導の充実を図っていきます。

さらに当社では、社員一人ひとりの自発的な改善提案を促進するための業務改善提案制度を設けており、積極的な省エネ提案も上がっています。設備の更新だけでなく、現場

社員によるボトムアップの取り組みも継続していきます。これらの環境対策に継続的に取り組むことにより、当社はフェロニッケル製錬事業のみならず、その環境対策においても、世界のトップを目指します。

※1:On the Job Trainingの略
具体的な仕事を通じて、必要な知識・技術・技能等を指導し、修得させる育成手法

世界の急速な変化に対応し、 継続的に発展し続けるために

当社は、1949年の創業以来、幾多の経済危機を乗り越え、東日本大震災における被災後も、全社一丸となって事業の復興・継続に取り組んできました。

近年、世界情勢はめまぐるしい勢いで変化しています。エネルギーや資源の問題をはじめ、さまざまな問題・課題が企業を取り巻き、国際社会が新たなステージに入りつつあることを実感しています。

当社が今後も持続的な成長を続けていくためには、世界情勢の大きな潮流の中にあって長期的な視野を持ち、現状把握と将来予測を怠らず、どうあるべきか、具体的に何ができるのかを見極めていく必要があります。同様に環境に関しても、変化の時代に求められる対応、具体的な行動を考えていく必要があります。

当社には、新興国をはじめとする海外の企業関係者が多数見学に訪れます。私たちは、製造技術だけではなく、私たちが取り組む環境対策についても紹介し、模範となる姿を示して行きたいと考えています。そのためにも、自らを律し、真摯に取り組んでいくことが重要だと考えています。



さらに効果的な統合マネジメント システムを目指して

当社では2013年度より、品質、環境、労働安全衛生の3つのマネジメントシステムを統合して、IMS^{*2}として運用を開始しました。3つのマネジメントシステムの共通点は多く、統合によって、より合理的で効果的な形に発展させることができました。課題に対してPDCA^{*3}によって対応することは、マネジメントシステムに限らず、さまざまな現場の課題解決にも役立っています。各マネジメントシステムの最初の認証登録から経験と実績を積み、現在は、いかにこの統合マネジメントシステムを使いこなすかというステップにきています。コーポレート・ガバナンスの充実、コンプライアンスや内部統制の強化に役立てる等、IMSをさらに有効なものとするため、今後とも継続的改善に努めていきます。

※2:統合マネジメントシステム(Integrated Management System)の略
※3:マネジメントシステムの手法の1つであり、Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善)の4段階を繰り返すことによって継続的に業務改善すること

今後に向けて

当社を支えているのは高度な技術力と社員力です。人生の多くの時間を仕事に費やす社員にとって、やりがいや生きがいを持てるような企業でありたいと考えています。そのためには、社員自らも日々自己研鑽に励み、真摯に仕事に当たってほしいと思います。変化の激しい時代に対応するには、社員一人ひとりのたゆまぬ自己啓発が必要であり、それが企業の、ひいては社会の成長の原資になると考えています。

当社は事業活動における環境負荷の大きい企業です。環境対策を行わなければ社会の中で評価をいただくことは難しいと考えています。持続可能な社会の実現に向けて、社員力・技術力を結集し、全社一丸となって、さらなる環境負荷低減に努めていきます。

同時に、地域貢献、東日本大震災復興についても、当社のスラグ製品を活用いただく等、地域との共生を図りながら継続的に行っていきます。

今後も、環境対策が生産活動と一体であることを認識し、引き続き重要な経営課題として取り組んでまいります。

代表取締役社長 佐々木 朗